

今は手にしなくなったが500円札の富士の山を歩く  
雁ヶ腹摺山～金山鉦泉

実施日 2016年11月6日(日)  
天候 快晴  
リーダー 涌井 良明  
参加者 涌井良明、山崎富美恵、白石恵美子、小村井好枝、石附智江、渋谷京子、中村友子、石原勝正、鶴崎洋明、徳山敬子、瀧澤きよの、石附恵理子、阿部一郎 計13名  
費用 JR1,160円(高尾起算) 2,660円  
タイム 大月駅(8:28~35)大峠(9:15~25)雁ヶ腹摺山(10:20~40)白樺平(11:10)姥子山東峰(11:35~12:15 昼食)百間干場(13:20~25)金山峠(13:40)金山鉦泉(15:00)

一日中雲が見えない快晴の下で、登山口から新雪を纏った見事な富士をお供に歩けた前半の行程と、廃道になりかけのようなゴールの金山鉦泉に向けたアスレチック下山道がバランスして、結果として行程に変化のある面白い?山行になったのだが...

大月駅から快晴の大峠へ、道路際の駐車場は既に満杯だ、見通しも良いこの時期と好天で富士山見物のハイカーが繰り出しているようだ。



登山口からは、道がしっかりと続き、陽に輝く黄葉が気持ち良い。高くなるにつれ

葉を落とした木々も多くなり晩秋も感じさせる。所々富士の姿もチラチラ見ながら、直下の急登が終わって辺りが広がると山頂は近い。登り切って振り返ると... Oh!500円札の眺めだ。

三ツ峠、滝子山、鶴ヶ鳥屋山などを前景にまざまさに秀麗な富士が佇んでいる。富士はやはり眺める山...か?



思い思い写真に収めて、南東に延びる尾根を姥子山に向かう。道は一気に下るのみとなっている。辺りは冬枯れ模様から再び黄金や朱

の癒やしの道になってくる。一旦緩くなって分岐を姥子山に向かう。林道を横断し一登りでも姥子西峰、更に瘦せ尾根を伝い短い急登で姥子山東峰に着く。ここも雁ヶ腹摺山同様大月市選定の富岳十二景の美しい姿が大きい。せまい山頂で時間も丁度なのでランチである。



姥子山からは林道まで戻り、左へ少し進み、導標に従い再び尾根道の下りになる。しばらくは黄金色の美しい華やかな下りが楽しい。杉が多くなると尾根を離れて一気に下る、荒れた林道に降り立つ。左に下って行きやがて百軒干場の導標を見る。

休憩後、金山峠への登り返しになるものの、登りは僅かでトラバース気味の緩い登りになり弛みに登り着くと峠で導標がある。左へ大岱山へ尾根が続いている。金山峠と思ったが2.5万回ではここから大岱山方面へ200m程進んだ弛みが金山峠と記されており登山道も記載されている。(どっちが誤り?)導標に従い金山へ下る道に入るが、この沢筋を下る道が実にオ・モ・シ・ロ・イ!? 通る人が少ないのか、未整備なのか、いわゆる荒れ放題で道型、踏跡も薄く予想より時間もかかった。峠から一気に急下降して沢筋まで下ってから赤布(テープ)を頼りに何度も徒渉を渡り返しながらか踏跡を辿って下って行く。徒渉箇所は古いながらも落ちたり損壊はなかった。アスレチック道のような沢筋の道を抜けると林道でしばらく金山鉦泉に出て歩きは終わった。



はしばらく待たされたが充実した秋の山で、紅葉、尾根道下り、沢筋歩き、薄い踏跡辿り、久し振りに高尾の反省会もできて、みなさん秋一日オモシロかったですよねっね?

(記&写真・涌井 良明)